

医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学会津医療センター感染症・呼吸器内科学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2020年6月 福島県立医科大学会津医療センター感染症・呼吸器内科学講座
鈴木 朋子

【研究課題名】 唾液による不顕性誤嚥と IPF 急性増悪との関連

【研究期間】 2020年6月～2025年3月

【研究の意義・目的】

特発性肺線維症という病気は、国の指定難病の一つであります。特に急性増悪という、急に呼吸が苦しくなったり胸部写真や血液検査データが悪化する病態は、呼吸不全（呼吸がスムーズにできずに酸素不足になる状態）が急に進行する原因にもなります。

なぜ、特発性肺線維症の急性増悪のような難しい状態になってしまうのかはまだはっきりわかっていませんが、近年「誤嚥：過って気管～肺内に胃や口の中のものが入ってしまうこと」が関係しているのではないかという報告がなされはじめ、現在では特発性肺線維症の急性増悪の一因として「誤嚥」が重要視されているわけです。

「誤嚥」には、胃の中のもの逆流して肺内に入るものと、唾液などが上から落ちて肺内に入るものがあります。これまで、特発性肺線維症の急性増悪において、前者の方は注目されていましたが、後者の方については世界的に見ても全く研究されていません。そこで私たちは、患者さんから採らせていただいた気管支肺胞洗浄液を用いて、唾液のアミラーゼを測定したいのです。もし、特発性肺線維症の急性増悪の際に唾液のアミラーゼが気管支肺胞洗浄液中で高かったのであれば、「誤嚥」しないように予防策をとることができます。そうすれば、この難しい病態を抑制することができるかもしれないのです。そのことが、特発性肺線維症の急性増悪にならなくする、ひいては特発性肺線維症の生存期間を延ばすことにもつながると期待できるのです。

【研究の対象となる方】

1. 2014年6月から2020年5月までに会津医療センター附属病院感染症・呼吸器内科で気管支鏡検査を受けられた方。
2. 2020年6月以降に会津医療センター附属病院感染症・呼吸器内科で気管支鏡検査を受け本研究参加に同意した方。

※特発性肺線維症の方、比較対照として肺癌やサルコイドーシスなど他疾患の方を対象とします。

【研究の方法】

上記対象者の気管支鏡検査で得られた気管支肺胞洗浄液を用い、アミラーゼおよびペプシンを測定します。

【研究組織】

研究責任者 会津医療センター感染症・呼吸器内科学講座 准教授 鈴木朋子
研究分担者 会津医療センター感染症・呼吸器内科学講座 特任教授 新妻一直
准教授 齋藤美和子

【他の機関等への試料等の提供について】

該当なし

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒969-3492 福島県会津若松市河東町谷沢字前田 21-2
公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター 感染症・呼吸器内科学講座
担当 鈴木朋子
電話:0242-75-2100 FAX: 0242-75-2568

【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取消すことは困難な場合もあります。

〒969-3492 福島県会津若松市河東町谷沢字前田 21-2
公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター 感染症・呼吸器内科学講座
担当 鈴木朋子
電話:0242-75-2100 FAX: 0242-75-2568
E-mail:suzukito@fmu.ac.jp